

2. 交流協定

学術交流協定

協定国	協定先	協定先(アルファベット表記)	協定年月日	期間
ギニア	ギニア科学技術庁	La Direction Nationale de la Recherche Scientifique et Technique	2004.1.28	5 年間 (自動継続)
ギニア	ボソウ環境研究所	L'Institut de Recherche Environnementale de Bossou (IREB)	2016.6.28	5 年間 (自動継続)
台湾	国立屏東科技大学 野生動物保全学研究所	Institute of Wildlife Conservation National Pingtung University of Science and Technology	2008.1.24	10 年間
大韓民国	ソウル大公園(ソウル動物園)	Seoul Grand Park (Seoul Zoo)	2010.4.28	—
タイ	チュラロンコン大学理学部	Faculty of Science, Chulalongkorn University	2010.5.24	5 年間 (自動継続)
スイス	チューリッヒ大学獣医学部	The University of Zurich, Vetsuisse Faculty, Clinic of Zoo Animals, Exotic Pets and Wildlife	2012.6.20	3 年間 (自動継続)
コンゴ民主共和国	キンシャサ大学理学部	Faculty of Science, University of Kinshasa, Democratic Republic of Congo	2013.1.7	5 年間 (自動継続)
インドネシア	ガジャマダ大学獣医学部	The Faculty of Veterinary Medicine, Universitas Gadjah Mada, Indonesia	2013.11.5	5 年間 (2014.1.1～)
インドネシア	ボゴール農科大学理数学部	The Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Bogor Agricultural University, Indonesia	2013.11.13	5 年間
中国	中山大学社会学与人類学院	The School of Anthropology and Sociology, Sun Yat-sen University, China	2015.3.11	5 年間
スリランカ	スリジャヤワルデネプラ大学社会学・人類学教室	The faculty of Humanities and Social Sciences, Department of Sociology and Anthropology, University of Sri Jayawardenepura, Sri Lanka	2015.8.15	10 年間
タイ	タイ王国動物園協会	The Zoological Park Organization, Thailand	2015.12.15	5 年間
タイ	チュラロンコン大学霊長類研究センター	National Primate Research Center of Thailand, Chulalongkorn University, Thailand	2015.12.15	5 年間
大韓民国	韓国国立生態院	National Institute of Ecology, Republic of Korea	2016.4.5	5 年間 (自動継続)
アメリカ	ケント州立大学 人類学・生物医学 (バイオメディカルサイエンス) 部門	THE DEPARTMENT OF ANTHROPOLOGY AND THE SCHOOL OF BIOMEDICAL SCIENCES, KENT STATE UNIVERSITY, USA	2016.7.27	5 年間 (2016.8.1～)
アメリカ	リンカーンパーク動物園 インディアナポリス動物園	THE LESTER E. FISHER CENTER FOR THE STUDY AND CONSERVATION OF APES (LINCOLN PARK ZOO) THE POLLY H. HIX INSTITUTE FOR RESEARCH AND CONSERVATION (INDIANAPOLIS ZOO)	2016.11.11	5 年間
インド	インド国立高等研究所	The National Institute of Advanced Studies Bangalore, India	2016.12.19	10 年間
コンゴ民主共和国	生態森林研究所	The Research Center for Ecology and Forestry, D.R.Congo	2016.6.1	5 年間
ミャンマー	ミャンマー文化宗教省考古局	The Department of Archaeology and National Museum of the Ministry of Religious Affairs and Culture, Nay Pyi Taw, Myanmar	2017.12.13	5 年間 (自動継続)

共同研究協定

日本	財団法人名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館)		2009.7.3	—
マレーシア	オランウータン島財団	Orang Utan Foundation	2010.11.1	—
マレーシア	ブラウバンディング財団	Pulau Banding Foundation	2010.11.1	—
日本	西海国立公園九十九島水族館 「海きらら」		2012.6.16	—
日本	日本モンキーセンター		2014.10.15	—
日本	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所		2014.1.22	5 年間 (自動継続)
日本	新潟大学脳研究所		2015.8.1	5 年間 (自動継続)

日本	中部大学創発学術院	2016.9.2	5 年間 (自動継続)
日本	公益財団法人鹿児島市水族館公社 (かごしま水族館)	2016.11.1	5 年間 (自動継続)

3. 学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

Renata Andreia da Silva Mendonça（課程）：Development of independence and behavior of wild immature East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*), Danum Valley Conservation Area（ダナムバレイ保護区の東ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus morio*) の未成熟個体における自立性と行動の発達）

柳興鎮（RYU, Heungjin）（課程）：Mechanisms and socio-sexual functions of female sexual swelling, and male mating strategies in wild bonobos（野生ボノボのメスの性皮腫脹のメカニズムと社会的・性的機能とオスの交尾戦略）

Yena Kim（課程）：The origin of prosociality and fairness: Perspectives from experiments with orangutans（向社会性と公平性の起源：オランウータンでの実験研究からの視点）

西栄美子（課程）：旧世界ザルにおける甘味受容体機能の多様性

酒多穂波（課程）：自発的運動開始に先行する脳活動

寺田佐恵子（課程）：Habitat use of bonobos at Wamba, D.R.Congo: utilization of diverse vegetation including swampy and anthropogenic habitat（コンゴ民主共和国ワンバにおけるボノボの生息地利用：湿地及び人為利用地を含む多様な植生の活用）

Rafaela Sayuri Cicalise Takeshita（課程）：Factors regulating steroid hormones in Japanese macaques and orangutans（ニホンザルとオランウータンにおけるステロイドホルモンの動態を調節する要因）

小谷真奈斗（論文）：精神疾患治療薬の創製に向けたコモンマーモセットを対象としたバイオマーカー研究

京都大学修士（理学）

Gao Jie：チンパンジーによる身体知覚における倒立効果—同種他個体の身体的全体的処理に関する研究—

浅見真生：幾何学的形態解析によるマカク属遊離歯化石の種同定

糸井川壮太：キツネザル類における苦味受容体 TAS2R16 の機能多様性

岡村弘樹：野生ボノボにおける森林内の高さ利用の個体差の研究

川口ゆり：チンパンジーにおける赤ちゃんの認知：乳児の持つ報酬的作用と注意効果

河本悠吾：スマトラオランウータンにおける酸味受容体候補 PKD1L3/PKD2L1 の遺伝子解析および機能解析

黒木康太：マカクザルにおける精巣の生後発達を制御する遺伝子群の特定

黒木結花：ニホンザルを用いた逐次タッチ課題におけるタッチ順序の解析：自発的な系列パターン生成に関する考察

坂田良徳：コモンマーモセットにおける親から仔への利他的行動

高田裕生：脊髄損傷サルモデルにおける運動関連領野の神経可塑的变化の解明

柘植仁美：大脳皮質—基底核ループ回路への介入解析を目的としたマーモセットモデルの開発

峠明社：同所的オナガザル属3種の昆虫食におけるニッチ幅とニッチ重複

中村泉：屋久島海岸域に生息するニホンザルの果実選択

植原慧：コモンマーモセットにおけるブレパルスインヒビション(PPI)測定系の開発

4. 外国人研究員

招へい外国人学者・外国人共同研究者

K Finn（アメリカ合衆国、カリフォルニア大学・大学院生）

（2017.3.30～2017.6.26）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：ニホンザルにおける行動の時間的区間的分析

V Romano de Paula（フランス、ストラスブール大学・大学院生）

（2016.9.12～2017.8.27）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：病気発生の予測と予防のための霊長類の社会的ネットワークの使用

（2017.11.27～2019.11.26）

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：環境圧力、社会性、健康における関連性の理解

J Duboscq（フランス 所属・無）

（2017.9.9～2019.9.8）